



河合 篤男氏

オープン カレッジ

ち上がる過程で、社会に潤沢に存在したとされます。未完の議論としながらも、「戦争では負けたが経済では勝つ」といった強い思い、つまり胆力や気魄という言葉で表現できるといいます。胆力や気魄が漲っていけば、必要な戦略

と企業経営について議論する、戦略駆動力の低下という議論は今でも納得的であり、日々実感するという意見に多く接します。他方、日本でもビジネスクールや経営大学院、シンク

社会的情熱という駆動力

にたどり着けるといっているので、タンクやコンサルティング企業などが充実をみせ、企業経営や経済政策について考える

ところやバブル崩壊以降、ご存じの通り、日本経済は長期にわたる低迷期に入りました。加護野教授は、長期低迷の根底に、日本における戦略

駆動力の低下があるとみていかに優れた戦略や政策が立

今から10年ほど前、加護野忠男先生（神戸大学経営学部教授、当時）が、「戦略駆動力」という概念を『一橋ビジネス・レビュー』に提示されました。戦略駆動力は、第2次大戦後、日本が驚異的な復興を遂げ、経済大国として立

かわい あつお 経営組織

経営戦略。神戸大学大学院卒・博士（経営学）。1965年生まれ。

議論より愚直な気持ち大切

案されても、それを愚直に追求する気持ちが人びとになれば、絵に描いた餅になりません。現実には、優れた戦略や政策に議論が偏向して、肝心の気持ちがなおざりであるとい

短引用ですが、経済学の役割が語られ、政策を以て社会を救う人びとが何に駆動されるのかも示されます。社会的情熱、すなわち社会的な使命ともいえ、戦略駆動力の喚起にも通じます。逆境におかれた人びとが、必死にそこか

本来、人間の胆力や気魄は、他律的なものというより、社会との相互作用の中で自然にこみあげるものに違いありません。社会の出来事が自分にどう影響し、逆に自分の行為が社会に何をもたらすかを想像する。一見回り道のように

では、いかに戦略駆動力を高めるのか。生前、加藤寛先生（慶応義塾大学経済学部名誉教授）は、厚生経済学の権威、ピグーの言葉をよく引用されました。「カーライルは言った。『哲学の始まりは驚異である』と。経済学の始まりは驚異ではなく、打ちひしがれた生気なき街の人びとを見て呼び起こされる社会的情

失われた20年とはいえ、先人達のおかげで、世界的にみて高い生活水準の日本において、そんな気持ちが持てるのでしょうか。まして、戦略駆

動力を人為的に操作するのは容易なこととは思えません。逆境に人びとを追い込む方法は、それが意図的なものかつた途端、真剣さを損なうでしょう。

